

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

令和元年 夏 第59号

あかり

A K A R I

ザ・てんかんセンター	1
ご挨拶	2
中学生職場体験/わかくさフェスティバル	3
新人自己紹介	4
院内認定てんかん看護師・ 院内認定重症心身障がい看護師の紹介	6
認知症疾患医療センター	6
外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8

ザ・てんかんセンター

昭和40年代にザ・ガードマンというテレビドラマが人気を博しましたが、ご存じでしょうか？
“ザ”という言葉は特定・特別なものを意味し、“他のガードマンとは一線を画する特別な存在”を意味していたのではないかと思います。

当院のてんかんセンターは国立療養所静岡東病院という名前であった1975年に和田豊治先生、清野昌一先生らが設立し、当時わが国では唯一のてんかんセンターでありました。その後、1980年以降に国立療養所寺泊病院(新潟)、国立療養所宇多野病院(京都)にてんかんセンターが設置され、2010年頃からは全国の大学病院などにてんかんセンターの開設が進みました。2013年にはてんかんの外

科治療に対応できる病院を中心に全国てんかんセンター協議会(JEPICA)が結成され、多診療科と多職種の垣根を越えたてんかん医療の質の向上のための活動をしています。外国では以前から Comprehensive Epilepsy Program という名のもとに文字通りてんかんの包括医療を目指す動きが活発でした。

てんかんの包括医療はてんかんの内科治療に加えて外科治療も含むことは言うまでもありませんが、てんかん発作の治療にとどまらずに、合併することのある併存症(知的障がい、認知障がい、運動障がい、発達障がいなど)や、保育、学校、就労、妊娠出産、生活全般の問題点や不安などへの対応を含め、リハ

ビリ、療育、発達支援、心理、ケースワーカーなど多職種メディカルスタッフと力を合わせて“てんかんを持つ人を多面的に支援する”ことがてんかんの包括医療であり、これらを実践できる真のてんかんセンターはわが国にはまだまだ少ないのが現状です。

当院では約30名の医師がてんかん診療に携わり、新規抗てんかん薬の臨床試験、外科治療、食事療法など多彩な治療法を取り入れるとともに、多職種のメディカルスタッフと協力しててんかんの包括医療

を心がけ、てんかんを正しく理解し、理解していただくための活動にも取り組んでいます。地域のてんかん医療のみならず、てんかん診療に関わる全国の医療機関やてんかんセンターとも連携しながら、日本の“ザ・てんかんセンター”（日本てんかんセンター）として、てんかんをもつより多くの患者さんにご利用いただき、お役に立ちたいと心から願っています。

（副院長 今井 克美）

ご挨拶

令和元年6月1日付で臨床研究部長を拝命いたしました。

当院は国立病院機構に属しており、日々患者さんの病状を診察や検査などで把握し、適切な治療方針をたてて診療するとともに、臨床研究を推進する事が目標になっています。そのため当院には臨床研究部が設置されています。臨床研究とは病気に直接関わる問題を検討することを目的としています。例えば、同じ病気なのに個々の患者さんによって少しずつ病状が違っていて診断方法、治療方法、看護方法に工夫が必要な事があります。この、工夫の内容を検討してより良い診療に結びつけるのが臨床研究の役割の一つです。当院は、てんかん、神経難病・認知症、重症心身障がいの専門病院で多くの患者さんが受診されますので、たくさんの経験を元にして新しい知識を見いだせるように努力しています。

特に、治療法に関しては新薬の開発が重要な役割です。新薬は、基礎研究で見出された薬物を動物実験などで安全性を確認した後に、「治験」によって患者さんに応用するという段階を経て、一般に使用できるようになります。この「治験」では、新薬の効果と安全性を多方面から検証しています。患者さんの「治験」への参加は

ボランティアですが、新しい治療薬をいち早く試することができるという利点もあります。当然ですが、患者さんの安全と利益を守ることが大前提ですので、GCP法令という治験に関する基準を厳格に守りながら慎重に行っています。これまでに、てんかん、パーキンソン病、認知症などの治験を行い、多くの新薬を世に送り出すことに貢献できています。

臨床研究を行う上で最も重要なのが、患者さんの安全や権利が守られるのか、説明と同意をどのように行うのか、個人情報を守られるのか、研究を行う科学的意義があるのか、という観点についての判断です。臨床研究では一つ一つの研究について研究計画書が提出され、外部委員も参加した倫理委員会で審議されます。倫理委員会で承認されると病院長の許可を得て研究を開始します。臨床研究は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいてモニタリングや監査を受けながら進められます。臨床研究によって得られた新しい知識は患者さんの個人情報を匿名化して学会や論文で発表されます。

このように、臨床研究部では患者さんの問題解決に役立つことを目指して、倫理指針を厳守しながら多くの臨床研究を行っています。今後ともよろしく願いいたします。

臨床研究部長 小尾 智一

中学生職場体験

副看護部長
澤村 智子

当院は毎年、高校生や中学生の職場体験を受け入れています。今年度も5月29日から5月31日の3日間、中学生2名が職場体験を行いました。職場体験の目的は、働く人の姿を目にしたり体験することで働くことの意義や喜び、責任の大きさを実感したり、自分の将来の進路に対する意識を高めることです。



オリエンテーションで病院の説明を受けて重症心身障害病棟へ。初めて患者さんと触れ合うため笑顔もぎこちなかった2人ですが、看護師と一緒に声をかけると患者さんはにっこり。その笑顔に自然

と2人にもにっこり。緊張もほぐれ、一緒にウッドデッキで過ごしたり、ベッドメイキングや配膳の手伝いを看護師と行いました。その他にも医師や各病棟の看護師長から話を聞いたりコメディカルの方からも説明を受け、様々な職業の人たちが患者さんの療養を支えているということが理解できたようでした。

今回の経験を通して感じたことを今後の進路に役立てていただければ幸いです。ご協力いただいた各職場の皆様、ありがとうございました。



わかくさフェスティバル ～祝開棟50周年!!～

重症心身障害児・者病棟は、昨年開棟50周年を迎えました。そのお祝いとして、今年5月にわかくさフェスティバルと題して「NPO法人心魂プロジェクト」を迎え、コンサートを行いました。NPO法人心魂プロジェクトは、劇団四季出身俳優や元宝塚劇団女優を中心

心にプロのパフォーマンスを届ける活動をしている団体です。当日は、ピアノとドラムの演奏に合わせてディズニーの名曲やJ-POPなどすばらしい歌を、患者さんの近くまで行き目の前で歌を歌っていただきました。迫力のある演奏に目を大きく開け見ている方や一緒に歌っている方など様々な姿が見られました。今後も、患者さんを楽しんでもらえるよう行事を行って行きたいと思います。

(療育指導室 保育士 小池 菜生)



新人自己紹介

脳神経内科医師

高嶋 浩嗣

4月から赴任しました高嶋浩嗣と申します。これまでには浜松医科大学付属病院などの急性期を主にみる病院で神経内科医として働いておりました。慢性期における関わり合いを学んでいきたいと考えおりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

脳神経内科レジデント

徳本 健太郎

初めまして、徳本健太郎と申します。これまでは千葉県や東京都で神経内科医として勤務しており、この4月からてんかんの勉強のため静岡に来させていただきました。年齢、性別、社会的背景など多岐にわたる患者さんが、様々な思いを持って当院を受診されると思います。そういった希望や思いに少しでも応えられるよう、頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

小児科レジデント

浅見 麻耶

4月から小児科レジデントとして勤務させていただきます。岩手県出身で、現在卒業後10年になります。てんかんの患者様・ご家族の日常に笑顔が増えるよう、日々精進して参りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

小児科レジデント

永井 康平

小児科レジデントの永井康平と申します。埼玉県出身で、福井大学を卒業後、初期研修からは自治医科大学附属さいたま医療センターで勤務し、そのまま小児科に入局しております。2017年に小児科専門医を取得し、サブスペシャリティ領域の研修のため、1年間静岡てんかん・神経医療センターでてんかんを学ばせていただくこととなりました。医師としても8年目とまだまだ未熟であり、至らないことも多いですが、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

小児科レジデント

井田 久仁子

4月からレジデントとして勤務させていただいております井田久仁子と申します。

長野県出身で学生時代以降は群馬県におりました。ここで学ばせていただき、またお役に立てるようなと思ひしております。どうぞよろしくお願ひいたします。

臨床検査技師

田中 美穂

てんかんや神経難病の患者さんと接し大変なことも多いですが、コミュニケーションを取り良い検査結果を出せるようにがんばります。至らない点もあるかと思ひますが、よろしくお願ひします。

臨床検査技師

筒井 純菜

まだまだ分からないことがたくさんありますが、先輩方の親切なご指導の下、日々学んでおります。早く一人前になれるよう頑張っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

A2病棟 看護師

海野 友梨

4月からA2病棟に配属となりました、海野友梨です。神経内科病棟であることから、より専門的な知識を身に着け、患者さんや家族に寄り添う看護を目標とし頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

A2病棟 看護師

大塩 純子

A2病棟に配属になりました大塩純子です。長期療養されている患者さんが多いため、患者さんの生活支援と思いに寄り添った看護をしていきたいと考えています。よろしくお願ひします。

A3病棟 看護師

柴田 紀子

今までと違う環境の事も多くあり戸惑うことも多々ありますが、てんかんについて勉強し、日々の看護にいかしていきたいと思ひます。専門性が強く、再就職先でもやりがいのある看護ができそうなので、頑張っていきたいと思ひます。

A3病棟 看護師

日下部 咲希

入職し2ヶ月経ちますがまだまだ分からないことが多いと痛感しています。日々勉強し知識や技術を身につけて、患者さんに寄り添った看護が出来るように頑張っていきたいと思います。

A4病棟 看護師

後藤 舞子

A4病棟に配属となりました後藤舞子と申します。患者様とご家族がてんかんと向き合い、患者様の成長発達をサポート出来る看護師を目指し、先輩方のご指導のもと、日々励んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

A5病棟 看護師

下井 文美恵

患者様やご家族の不安や悩みを一緒に考え寄り添える看護師を目指し、日々努力していきたいと思ひます。まだまだ解らないことも多く、ご迷惑をおかけすると思ひますが、よろしくお願ひ致します。

A5病棟 看護師

照屋 彩和

A5病棟の照屋彩和です。
分からないことやできないことがまだまだ多くありますが、先輩方から学ばせていただきながら、笑顔を大切に頑張りまひます。

A6病棟 看護師

丸山 真有美

今までの看護師経験にはない新たな分野に挑戦することで、看護師としてキャリアアップを図ることが出来るのではないかと考え、入職を希望しました。初心にかえて精一杯頑張りまひますので、よろしくお願ひします。

A6病棟 看護師

長田 佳大

4月に入職し、A6病棟に配属されました、長田佳大です。1年を通して、技術、知識、患者さんとの関わり方を学び、看護チームの一員として看護を実践できるようにがんばりまひます。

B1病棟 看護師

樋川 珠美

患者とたくさん触れあって、重症心身障害児者の患者のひとりずつの特徴を捉えていきたいです。そして患者の変化・思いに気づけるように、丁寧に関わっていきたいです。

B2病棟 看護師

吉野 成海

B2病棟に配属されました吉野成海です。初めてのことが多くて緊張することも多いですが、毎日多くの事を学んでいます。患者さんの個別性を考えて看護を行う事ができるように頑張りまひます。よろしくお願ひ致します。
宜しくお願ひ致します。

B2病棟 看護師

谷内 誠紀

他の病院から来まひました。これまでの経験を活かし専門領域の看護を学びながら、患者さんとご家族の気持ちに寄り添った看護を行えるよう頑張りまひます。よろしくお願ひ致します。

C1病棟 看護師

伊東 飛雄

今年からC1病棟に配属されました。まだ右も左も分からずご迷惑をおかけするかもしれませんが、頑張りまひますのでよろしくお願ひ致します。

医療福祉相談室 医療社会事業専門員 田中 佐代子

前職では精神科病院のPSWとして従事してまひました。これから新たな経験を積み重ねながら研鑽に励み、患者様に還元できるよう努めて参ります。何卒よろしくお願ひいたします。

療育指導室 児童指導員

永川 千夏

患者さんと沢山コミュニケーションをとり、笑顔溢れる毎日を過ごせるよう、少しでもお手伝いさせていただきたいです。至らない点も多くありますが、精一杯頑張りまひます。よろしくお願ひ致します。

療育指導室 保育士

杉村 綾香

まだまだ未熟な部分ばかりですが、一つでも多くのことを吸収し成長していきたいと思ひます。常に笑顔がかけ、前向きに頑張りまひます。よろしくお願ひ致します。

院内認定てんかん看護師・ 院内認定重症心身障がい看護師の紹介

院内認定てんかん看護師 A3病棟

望月 美彩紀

私はてんかんという病気の正しい知識を身につけてもらえるようなサポートや、患者さんの思いに寄り添っていただける看護を目指したいと考えています。院内認定てんかん看護師は、てんかん看護のスペシャリストであるべきだと思うので、分からないことは「てんかん看護師へ聞こう」と、スタッフからも頼れる存在になれるように頑張っていきたいと思っています。



院内認定重症心身障がい看護師 C2病棟 押野 竜之介

今年度から院内認定重症心身障害看護師として活動させていただきます。

重症心身障がい児(者)病棟で働き5年目になります。これまで自分なりに勉強し看護してきたつもりですが、より一層理解に努め患者様が安全安楽に生活できるように、日々の看護に活かしていきたいと思っています。よろしくお祈りします。

院内認定重症心身障がい看護師 B2病棟 川口 洋樹

今年度から院内認定重症心身障害看護師として活動させていただきます。B2病棟の川口洋樹と申します。看護師としてまだまだ未熟なところがありますが、活動を通じて認定看護師としての経験を積み、患者様の日々の生活の質を高めていけるように意識して取り組んでいこうと考えています。これからよろしくお祈りいたします。

認知症疾患医療センター

専門医療相談担当 堀 友輔

厚生労働省の推計によると、65歳以上の認知症高齢者数が2012(平成24)年の462万人(約7人に1人)から2025(平成37)年には約700万人(約5人に1人)に達するとされており、これに対して国は認知症施策推進総合戦略「新オレンジプラン」で対策を進めており、国民の関心も高まっています。

さて当院では、平成26年2月より静岡市の指定を受けて静岡市認知症疾患医療センターを運営しています。静岡市内では、当院の他に溝口病院と静岡市立清水病院が指定されています。認知症疾患医療センターとは、認知症疾患における鑑別診断や専門医療相談、医療機関等の紹介、地域保健医療・介護関係者への研修や連携などを行う専門医療機関です。当センターでは鑑別診断数が年間約300件、専門医療相談数は年間1000件弱です。

鑑別診断には日本認知症学会に所属する専門医が診療にあたり、画像検査や神経心理検査などで診断

をおこない治療方針を立てています。初診当日に結果が出るケースは少なく、2~3回受診した後に医師から認知症のタイプや進行の程度、そして治療方針とケアの方針を説明させていただきます。受診時には原則としてかかりつけ医の紹介状が必要です。鑑別診断と方針決定の後には、かかりつけ医に差し紹介します。

専門医療相談では、認知症に関する相談であれば、どなたでも相談することができます。相談内容も、受診に関する相談はもちろんですが、認知症の対応法や受診を拒否して困っているなど様々な相談に応じております。状況によっては地域包括支援センターなどの適切な相談窓口を紹介させていただく場合もあります。認知症に関する困りごとがありましたらご相談ください。

認知症疾患医療センター専門医療相談 054-246-4608

診 療 体 制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

診察室	曜日	初 診					再 診				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
第1診察室							山崎	川口	山崎	白井	
第2診察室			久保田		久保田	久保田	池田仁 <small>午前のみ</small>		久保田		
第3診察室		今井		白井	今井	今井		荒木			
第4診察室	日吉			日吉			鳥取	日吉		日吉	
第5診察室						池田	池田浩	池田浩	寺田清	寺田清	
第6診察室						芳村			芳村	松平	
第7診察室							荒木		美根	山口	
第8診察室	高橋			高橋			西田	高橋		近藤	
第9診察室		寺田清	池田			重松			大谷	大谷	
第12診察室	西田	松平 <small>(第1,2,4,5週)</small> 芳村 <small>(第3週)</small>	重松	荒木 <small>(第1,3,5週)</small> 松平 <small>(第2,4週)</small>	西田 <small>(第1,3,5週)</small> 山崎 <small>(第2,4週)</small>						

神経内科

■ 初診

診察室	曜日	月	火	水	木	金
第10診察室	午前	寺田	小尾	小尾		小尾
	午後	小尾	小尾	小尾		小尾
第11診察室	午前	杉浦 <small>(再診あり)</small>	杉浦	寺田達		山崎/馬場國
	午後			寺田達		尾内 <small>(第4週)</small>

特殊外来

転倒予防外来	随時	小尾
認知症疾患医療センター	月・水	小尾
遺伝相談	随時	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁
ねむけ外来	月	寺田清
包括的てんかん外科初診外来	火	白井

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

地域医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、地域医療連携室を設置しています。ご利用ください。(平日)

T E L ■ 054-246-4580

F A X ■ 054-246-4607

E-mail ■ 307-renkei@mail.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、地域医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人 ■

寺田 清人 松下 剛 池ヶ谷和美
 矢嶋 隆宏 佐倉 裕二 葛城 裕幸
 堀 友輔 高橋 輝 長田 英喜
 大山 敏生

発行 ■ 令和元年7月22日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

T E L ■ 054-245-5446

F A X ■ 054-247-9781

U R L ■ <https://shizuokamind.hosp.go.jp/>

E-mail ■ 307-shizuokamind@mail.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約は、本人・家族は予約センター(054-246-1065)、病院からは地域医療連携室(054-246-4580)
その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,700円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

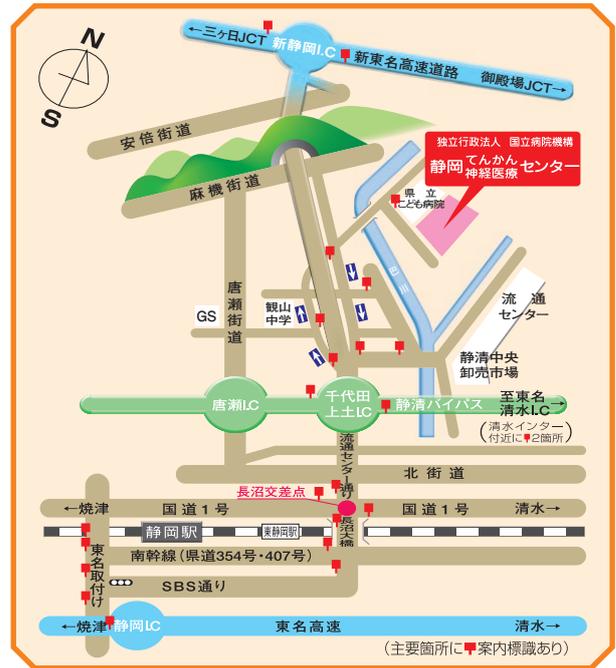
セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	東京方面から
	名古屋方面から
東京方面から	● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。 ● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋方面から	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。 ● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

● 抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

● てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～

【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

● てんかんをめぐるアート展2016

【日興美術社、2016年】

当院が主催した第50回日本てんかん学会学術集会の折りに、「てんかんをめぐるアート展」を開催しました。その図録です。全国から集まった160点を収録しています。当院にて入手可能です。

● プライマリ・ケアのための

新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)